

-----1月19日-----

## 今週のアウトルック (1/19 ~ 1/23)

先週は週初めから木曜日の夕方あたりまでは円高が進みました。その後ドル円で88円50銭あたりを折り返し地点に、金曜日のNY市場の終わりまで、各通貨一斉に円安が進みました。

ドル円で91円目前、ユーロ円で120円50銭あたりまで、円安が進んでいます。理由としては、週末のポジション解消、バンカメ救済、ユーロの利下げに波乱要因はなかったこと、ECB議長の発言に2月に更なる利下げ示唆がなかったこと、米国のミシガン大学消費者信頼感指数が予想を上回る好結果となったこと、オバマ大統領に就任を目前としたご祝儀買い、などがあげられると思います。

さて、今週ですが、もう一段の円安を予想する声が多い中、ドル円、ユーロ円ともに現在のレートあたりを折り返し地点とした、円高を考えています。

理由として、まずドル円は92円あたりがある程度厚いレジスタンスになっているようで、金曜日の深夜も、NYダウが下落した場面では一時的に90円10銭あたりまで下落しました。

ECB議長の発言には、3月以降利下げの可能性を示唆する内容が多く、欧州の景気先行き懸念が強いこと。企業の決算に向けた発表には下方修正要因が多いこと。21日を期限としたオプションの波乱要因などを考えています。

特にユーロ円については、一転して118円あたりまでの下落があってもおかしくないかなとも考えています。

いずれにしてもNYダウなどの動きに左右される可能性は大きいです。新大統領就任のお祭り騒ぎと、過大な政策期待感から一気にNYダウが上昇してしまった場合は、私が考えたシナリオは一気に崩れ去ってしまうと思います。

過大な期待感と裏付けの薄い理由を根拠とした、一時的な株高、円安も起こりやすい状況であることは確かなので、注意をする必要はあるのかもしれませんが。

## システムトレード的アドバイス

### 「結果が出るまでの動きを見ない」

システムトレーダーで、場中の動きを一切見ないという方も意外に多いです。つまり、売買サインが出て、ストップをつけて、仕切り期限(あるいはリミット)を決めてポジションを持った後は、一切レートの変化やチャートの動きを見ないということです。

システムトレードの場合、最初に考えた条件を決して変えてはいけません。ということがルールになっています。なので、場中の動きなどをみる必要は全くないのかもしれませんが。

裁量トレードで、「1円20銭程度の利益が目標、1円逆方向に動いたら損切り」という方針を決めてポジションを持ったあと、50銭程度の利益が出たころから動きがあやしくなり、あわてて50銭の利益で仕切ってしまった、というような経験をお持ちの方も多いのではないのでしょうか。

こういった状況に合わせた判断で、難を逃れることもありますが、仕切った後に目標利益にまで到達してしまうことも多いと思います。これをどう解釈すべきでしょうか？

もし状況に応じてポジションを仕切るつもりなら、最初からその予定でいるべきだと思います。方針を途中で変えてしまうトレードはあまり良い結果を生むことが少ないです。

損切りになってしまい、結果的に負けトレードになってしまっても、これは状況を読み違えたのか、それとも損切りの値が近過ぎたのかなど、きちんと考察することができて、後のトレードにつなげることもできます。

最初の方針を初志貫徹、結果が出るまでできるだけレートの動きを見ない、という方法は裁量トレードでもよい結果を導く可能性は高いように思います。

**\* 免責事項 \***

当レポートを参考にトレードを行い、損失が生じた場合でも、責任は負いかねますのでご了承ください。